



## プールでうつる皮膚の病気

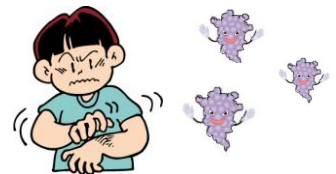
皮膚の病気というと「うつる」イメージが強いと思いますが、実際にはうつる病気は少なく、非常に限られています。

これからプールに入る機会が増えてきますが、プールに入ったときにうつる可能性がある病気について簡単に説明します。



### とびひでんせんせいのうかしん (伝染性膿痂疹)

虫さされや湿疹など、かゆみを伴う症状があると、ひっかいて傷ができます。傷からしるが出来るようになると、その部分に主にブドウ球菌が感染し、ふえた細菌から外毒素がつくられ、皮膚をきずつけることで水ぶくれができます。水ぶくれの中には、たくさんの細菌がいるため、破れて出てきたしるが、他の場所や他の子どもにつくと、同じような症状を起し次々と感染していくため、とびひと言われます。



治療は、抗生剤の飲み薬と、塗り薬が基本となりますが、かゆみが強いため、ステロイドの塗り薬を併用することがしばしばあります。

塗り薬のみで治ることは非常に困難です。かゆみがあり、水ぶくれが出来るような場合は、早めに受診しましょう。



以前は入浴を禁止していた場合もありましたが、最近ではお風呂に入って傷を洗い、その場所にいる細菌を洗い流すほうが有効と考えられています。



プールでは、直接皮膚と皮膚が接触することが多く、通常よりはうつる可能性が高くなります。あきらかにとびひの症状がある場合には、プールに入るのは控えておいたほうがよいでしょう。

でんせんせいなんぞくしゅ  
水いぼ(伝染性軟属腫)

伝染性軟属腫ウイルスによって引き起こされ、ごま粒から米粒の半分くらいの、小さなぶつぶつができます。

ぶつぶつの中央は少し白っぽく見える部分があり、つぶすと白い小さな固まりが出てきます。この固まりの中に、たくさんのウイルスが入っています。

治療の基本は、ピンセットなどでつまんで取ってしまうことです。その際に痛みを伴うことや、自然に治る子どももいることから、医師によっては、無治療でかまわないと考える人もいますが、アトピー性皮膚炎など皮膚の弱い子どもでは急に数が増えたり、兄弟や友達にうつることも多いため、治療を行うほうがよいと思います。



最近では、事前に麻酔のテープを使用することで、かなり痛みを抑えることができるようになりました。数が少ないうちでしたら、短時間で治療が終わり、子どもの負担も少なくて済みますので、できるだけ早く受診しましょう。



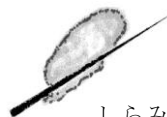
直接皮膚が触れ合うとうつりますので、プールでの感染の機会は高くなりますが、水いぼがあるだけでプールを禁止する必要は無いと思います。

水泳直後にシャワーを十分浴び、タオルの共用を避けましょう。

頭しらみ



成虫(体長2~4mm)



しらみの卵(0.5mm)

頭しらみの移動速度は速く、成虫を見つけるのは困難ですが、髪毛にふけのような白い固まりがこびりついているのがよく見られます。これがしらみの卵です。簡単に取りれない場合は、頭しらみを疑ってください。



治療は、市販のしらみ用のシャンプーあるいはパウダーを、使用説明書に従って使ってください。



薬は卵には効きませんので、髪にしっかりとくっついている卵は、スキグシなどを使って落としてください。

家族の間で感染を繰り返すことがあるので(ピンポン感染)、家族全員に感染があるかどうか注意し、対処する必要があります。

プールに入ってうつることはありませんが、脱衣場で衣服が重なったり、タオルを共用することにより、うつる可能性があります。

頭しらみのためにプールに入るのを禁止する必要はありません。

お昼寝や、頭をくっつけて遊ぶときにうつることの方が多いと考えられます。



ほけんだよりは、呉市のホームページでもご覧になることができます。

URL <http://www.city.kure.lg.jp/~kodosise/hoken.html>